

Shine like stars in a dark world

世にあって星のように輝く

HOKUSEI GAKUEN



Hokusei Gakuen
学校法人 北星学園

学校法人北星学園
<https://houjin.hokusei.ac.jp/>





Founded in 1887

北星学園とライラック

今日では札幌市のシンボルにもなった北海道のライラックは、
北星学園の創設者サラ・C・スミスが 1890 年に故郷であるアメリカから
携えてきた苗木がその始まりとされています。
1960 年に、市民投票によってライラックは「札幌の木」に選ばれました。
これほどライラックが市民の皆様に愛されていることは、
本学園にとっても大変名誉なことであり、深い縁を象徴するものです。



北星学園創立者
サラ・C・スミス

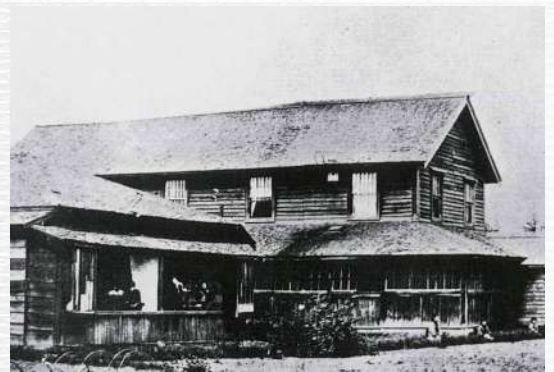
Sarah C. Smith

CONTENTS

03 北星学園のあゆみ	13 北星学園大学大学院	23 北星学園大学附属高等学校
05 学校法人 北星学園	15 北星学園大学 各種センター	27 北星学園余市高等学校
07 北星学園大学	17 北星学園大学 充実した学習環境	31 北星学園の高大連携
12 北星学園大学短期大学部	19 北星学園女子中学高等学校	33 北星学園大学の社会貢献

History of Hokusei Gakuen 北星学園のあゆみ

- 1851 米国人宣教師サラ・C・スミス誕生(3月24日)
- 1887 サラ・C・スミスによりスミス塾が札幌市北1西6に開校(1月15日)
- 1889 スミス女学校として正式認可
- 1894 札幌市北4西1に移転し、北星女学校に名称変更
- 1912 創立25周年記念式典挙行
- 1917 創立30周年記念式典挙行
- 1926 聖書・英文・家政専攻科設置
- 1927 創立40周年記念式典挙行
- 1929 札幌市南5西17に新校舎建築移転(後に、南4西17に住居表示変更)
- 1932 創立45周年記念式典挙行
- 1935 保育専攻科設置
- 1937 創立50周年記念式典挙行
- 1943 財団法人北星高等女学校に名称変更
- 1947 サラ・C・スミス召天(2月18日)
創立60周年記念式典挙行
- 1948 高等学部設置
- 1949 北星学園中学校、同高等学校に名称変更
- 1951 学校法人北星学園に組織変更
北星学園女子短期大学設置(英文科)
- 1954 女子短期大学に家政科増設
- 1955 短大附設幼稚園教諭養成所設置
- 1962 北星学園大学設置(文学部英文学科・社会福祉学科)
北星学園女子中学校、同女子高等学校に名称変更
北星学園男子高等学校設置
創立75周年記念式典挙行
- 1964 大学が現厚別区大谷地に移転
- 1965 大学に経済学部(経済学科)増設
北星学園余市高等学校設置
- 1967 短大附設幼稚園教諭養成所を女子短期大学附設保育専門学校に名称変更
- 1969 女子高等学校に音楽科増設
- 1970 女子高等学校に英語科増設



北4条西1丁目校舎(1894)



南5条西17丁目の校舎(1929)



南5条校舎の絵葉書(1962)

- 1977 創立90周年記念式典挙行
- 1978 短大附設保育専門学校を幼稚園教諭・保育養成所に名称変更
- 1980 女子短期大学の英文科を英文学科に、家政科を家政学科に名称変更
男子高等学校を現厚別区下野幌に移転
- 1987 大学経済学部経営情報学科増設
男子高等学校を新札幌高等学校に名称変更し、共学化
学園創立百周年記念式典挙行
- 1988 幼稚園教諭・保育養成所廃止
- 1989 短大家政学科を生活教養学科に名称変更
- 1992 大学に大学院設置(文学研究科)
- 1996 大学に社会福祉学部増設(福祉計画学科、福祉臨床学科、福祉心理学科)
- 1997 創立110周年記念式典挙行
- 2000 大学院に社会福祉学研究科増設
- 2001 大学院に経済学研究科増設
- 2002 大学文学部に心理・応用コミュニケーション学科を、経済学部を経済法学科を増設
北星学園女子短期大学を北星学園大学短期大学部に名称変更し、共学化
短大生活教養学科を生活創造学科に名称変更
北星学園新札幌高等学校を北星学園大学附属高等学校に名称変更
- 2007 創立120周年記念式典挙行
- 2017 創立130周年記念式典挙行
- 2023 大学社会福祉学部に社会福祉学科を設置
福祉心理学科を心理学科に名称変更
- 2026 大学に国際学部 グローバル・イノベーション学科 増設



大学チャペル外観(1965)



グラウンドが未整備の大学航空写真(1977)



Hokusei Gakuen

学校法人 北星学園

Shine like stars in a dark world

世にあって星のように輝く——フィリピ 2:15

（北星学園の校名の由来である聖書の一節です。新渡戸稲造が薦め、スミスがたいへん喜んだというように、光を掲げることを目指す本学園の教育が校名のごとく、名実共に、神の豊かな祝福の中に進められていけばと願っています。）

北星学園の建学の精神

「キリスト教に基づく教育」

学校法人北星学園は、米国人女性宣教師サラ・C・スミスがスミス塾を創立してから、2017年に130年目を迎えました。スミスは教育者として、特に当時の日本人女性の教育に情熱を燃やしましたが、宣教師としてのスミスは、その教育方針にキリスト教を土台におき、「実生活においてさまざまな義務と責任を全うしうる知識の教授と、宗教的・霊的影響による人格の育成」を目標としました。この目標のもと、多くの学生・生徒は、神に仕え、人を愛することを学び、世に出て行きました。現在においても、この目標は北星学園の教育方針として、いささかも変わることなく継承され、本学園の「建学の精神」となっております。

北星学園が目指すもの	計画のビジョンを明確にしていくため、「学校法人北星学園中長期計画～グランドデザイン2020-2040～」を策定しています。 ■学校法人北星学園中長期計画～グランドデザイン2020-2040～ https://houjin.hokusei.ac.jp/about/grand-design/	
北星学園の取り組み	私立学校法第47条に基づき、事業報告書を作成し、公開しています。独自に事業計画書も作成し公開しています。 ■事業計画書・事業報告書(財務情報等) https://houjin.hokusei.ac.jp/about/finance/	
信頼される学校法人であるために	公共性と自主性を基本にした自律的な取り組みとして活用することを目的に、ガバナンス・コードを策定しています。 ■ガバナンス・コード https://houjin.hokusei.ac.jp/disclosure/governance_code/	

Message



北星学園理事長
古川 敬康
FURUKAWA, Takayasu

北星学園は、1887(明治20)年アメリカ人女性宣教師サラ・C・スミスによって創設されたスミス女学校に始まります。スミスは、女子を後回しにしていた当時の教育界へ革新的で清新な風を吹き込みました。彼女の志と実践に共感した新渡戸稲造ら札幌農学校(現北海道大学)の教師陣は協力を惜まず、その教育水準は高く評価されました。以来、彼女の教育理念は後継者によって維持され、時代や社会の要請に答え、高等教育部門や教学部門をも包括するに至りました。「世にあつて星のように輝き」(聖書：フィリピの信徒への手紙2章15節)の理想を学園名に込めた学校で学んだ卒業生たちは、いま国内外の各地で活躍しています。



北星学園大学
北星学園大学短期大学部
学長 中村 和彦
NAKAMURA, Kazuhiko



北星学園女子中学高等学校
校長 カレン ベッシン
Karen E. Bessin

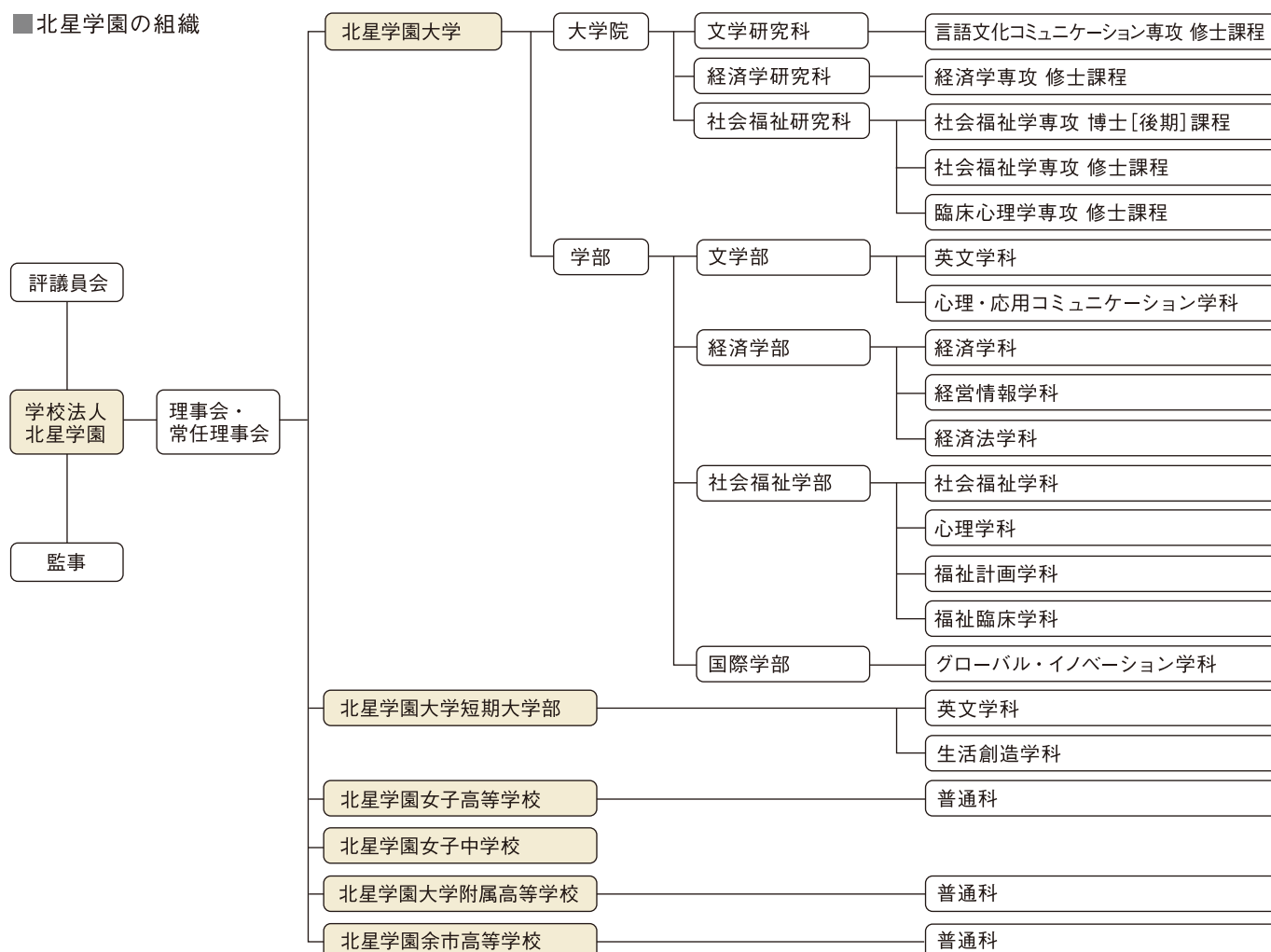


北星学園大学附属高等学校
校長 今城 慰作
IMAJO, Isaku



北星学園余市高等学校
校長 今堀 浩
IMAHORI, Hiroshi

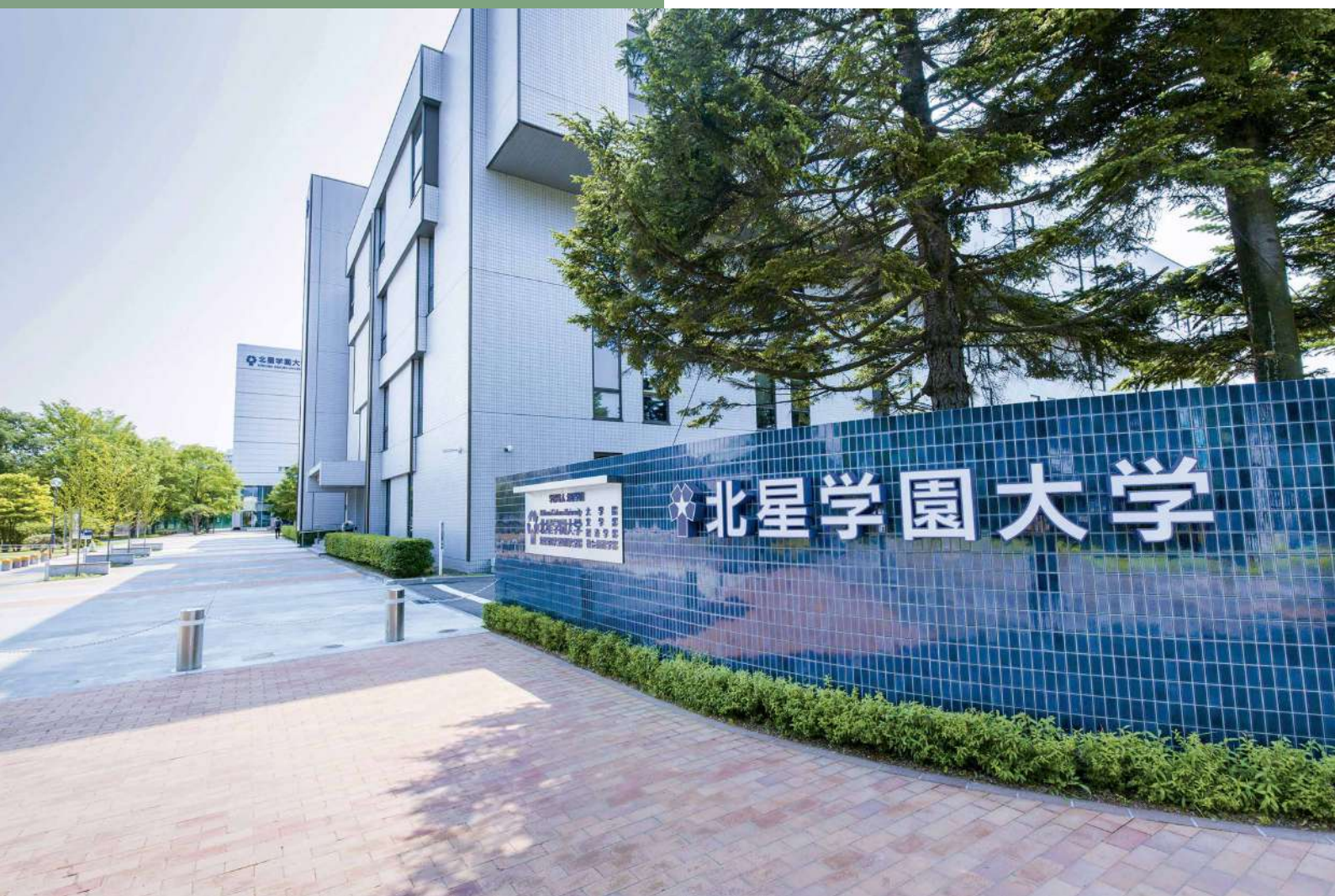
■ 北星学園の組織



Hokusei Gakuen University

豊かな人間性と
グローバルな視野
を備えた
人材を育てる

北星学園大学の建学の精神は、「キリスト教精神に基づいた人格教育」であり、そこで培われた人間性・社会性・国際性を備えた人材の育成です。高き教養と、人格の確立を目指した本学の教育は、多くの有意な人材を世に送り出し、社会の高い評価を得て今日に至っています。



北星学園大学



<https://www.hokusei.ac.jp/>



北星学園大学・北星学園大学短期大学部キャンパス

文学部／英文学科

高い英語力とコミュニケーション能力を備え、混迷する国際社会で文化間の架け橋として活躍できる専門家の養成を目指しています。1・2年次では国際経験豊かな教授陣によりすべて英語で行われる授業によって、口頭運用能力、文章表現力等英語基礎力の獲得を目指し、2年次からは日英語の通訳・翻訳など特殊技能の養成を目指したクラスの受講も可能となります。3年次以降は、英米を中心とした英語圏の文学テキストから、多彩で奥深い英語表現や背景を学びながら、現実に即した視点で文学や文化を探究する「文化・文学コース」、英語を中心とした言語の構造やその習得のしくみ、社会・教育・対人コミュニケーションにおける言語の役割や運用方法を探究する「言語・コミュニケーションコース」、多文化・国際関係学の学びをもとに、グローバルな視点からの知識と思考力、および異文化コミュニケーション能力の獲得を目指す「グローバル・スタディーズコース」の3コースに分かれ専門性を身につけます。



<https://www.hokusei.ac.jp/english/>



文学部／心理・応用コミュニケーション学科

人と人との豊かなコミュニケーションの実現を通じて、地域・国際社会に新しい価値を生み出す人間を育てることを目的に科学と現場の融合を目指した教育・研究体制を特色としています。まず、科学と現場の融合を実現するため、カリキュラムに実習を大幅に取り入れており、2年次には教育系、産業系、野外系、地域系、環境系に分かれ、現場での実習を行います。学生が自主的に自由な学習活動を行えるように、3年次後期には必修科目を1科目しか配置しない「フルフレックス制度」を導入し、最大7カ月間を自分でデザインした国内外での活動に充てることができるようになっています。さらに人間科学的アプローチと地域・国際的アプローチのどちらに重きを置くかは学生に委ねられており、卒業研究も多様な形態が認められています。また、コミュニケーションの重要な手段である言葉を重視し、意思を伝えるための「書く」「話す」の訓練を行い、英語検定などの語学検定の成果に対して単位を認定します。



<https://www.hokusei.ac.jp/psycom/>



経済学部／経済学科

「<知>の魅力に触れ、<なりたい自分>に出会い、<社会の主人公>になろう」をモットーに掲げ、経済の視点から社会を見渡し、人生を通じて通用する見識としての経済学的思考を身に付けた教養あるジェネラリストを育むことを目指しています。ミクロ経済学・マクロ経済学・経済統計学を基礎とする「応用経済コース」、社会経済学・社会経済史・現代資本主義論を基礎とする「社会経済コース」の二つのコースの基本科目・発展科目を組み合わせ、無理なく経済学的思考を身に付けることができます。また、国際関係論・グローバル社会論などを基礎とする「グローバル社会コース」の科目を併せて学ぶことにより、グローバルな視座を育みます。環境経済学・文化経済学・フェアトレードなどの領域で先進的な取り組みを進め、「メディアと社会」・「北海道の企業」など社会と連携した科目も用意しているほか、中学社会・高校地歴・高校公民の教員免許取得に対応する専門科目を用意し、幅広く教養を身に付けられます。1年次の「新聞活用」では、年間を通して日々新聞に触れることにより、学科学生全員の集団としての社会情報リテラシーの向上を図っています。

<https://www.hokusei.ac.jp/econ/>



経済学部／経営情報学科

デジタル技術による革新の波は、インターネットを介した取引や決済に見られるネットビジネスの普及を促し、企業経営を根本的に変えようとしています。企業経営の深化・拡大に伴って、経営・会計情報の分析能力と情報システムの活用能力が益々求められます。本学科は専門教育科目として「学科基礎科目」、「学科専門導入科目」、「学科実践能力科目」、「学科専門科目」を配し、段階的な履修を可能にしています。例えば「学科実践能力科目」では、情報活用リテラシーとビジネス実践能力を養い、「演習科目」では少人数のゼミ学習をさらに充実させ、幅広い企業経営の知識と会計理論、そして即戦力となる情報システムに関する技術を身につけた人材を育成します。教職課程では、現行の「商業」と「情報」とが同時に修得できる「履修モデル」が用意され、教育活動に携わる準備も整っています。

<https://www.hokusei.ac.jp/dmi/>



経済学部／経済法学科

わが国の経済システムと法制度は、経済のグローバル化、社会の多様化、ITの進化という3つの流れのなかで大きく変化しています。このような状況において求められているのは、法の支配に基づく公正かつ効率的な社会の再構築です。公正かつ効率的な社会の実現のためには、実証的研究により検証された経済学の専門知識と、リーガルマインドに裏打ちされた法的知識を兼ね備えた人材が必要不可欠です。本学科は、経済や法律の知識をベースに、社会で活躍できる実践的な能力の養成を目的としています。そのために、社会人としてのキャリア形成に必要な経済学・法律学の高度な専門知識を修得するための教育課程を用意しています。また、大学での学修に必要な基礎的能力を身につける基礎力養成塾(1年次)や経済学や法律学を学問として深く探究する演習科目(2～4年次)を展開し、少人数教育を充実させています。さらに、学生の履修をガイドするツールとして、コース制とスタディ・プランニングを導入しています。

<https://www.hokusei.ac.jp/ECLA/>





社会福祉学部／社会福祉学科

現代社会は「人と人のつながり」が希薄化している「孤立化社会」であると同時に、少子高齢化や過疎化なども相まって、人々が抱える生活問題はますます深刻化・多様化・複雑化しています。これらの解決には「個人・地域・社会」を一体的に捉え、様々なフィールドにおいて専門的かつ多角的な視点を持ち、関係する人々や組織等との連携・協働が不可欠です。社会福祉学科では、社会福祉学の学びを核としながら学際性も視野に入れつつ「コミュニケーション力」「分析力」「デザイン力」「支援力」「企画・実践力」「研究力」を育むことを通して、現代社会を生きる人々や地域・社会が抱える諸課題と向き合い、「多様性を認め、共に生きる社会の構築・実現」「地域社会の活性化・地域づくり」に貢献できる人材を育成します。そのために学びの柱として「ソーシャルワーク領域」「地域デザイン領域」「教育臨床領域」の3つを設定し、学生が自らの興味・関心に合わせて履修科目を系統的に積み上げつつ、領域横断的に学びの内容を選択できるカリキュラムを用意しています。社会福祉学を専門的・総合的かつ学際的に学ぶことで、福祉専門職(社会福祉士・精神保健福祉士等)、学校教員、行政機関(国家・地方)、一般企業、公益法人・団体、大学院進学など、卒後の進路について幅広い選択が可能になっています。



<https://www.hokusei.ac.jp/social-welfare/>

社会福祉学部／心理学科

パンデミックや長引く不況など、さまざまな困難に直面した社会情勢のなか、心の健康への注目が高まっています。多岐にわたる心理学を総合的に学ぶ心理学科では、科学としての心理学(基礎)と心の問題への取り組み(応用)という心理学の大事な両輪を、有機的に結びつけて学ぶことが重要だと考えています。心理学科では、科学的な心理学の成果に裏打ちされた専門知識と技能を有し、積極的に他者とかかわりあうことのできる感受性に代表される心理学的マインドを持ち、地域社会に貢献できる実践力と豊かな人間性を備えた人材を育成することを目指しています。そのために、本学科のカリキュラムは、認知心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学他の心理学の基礎理論を教授するだけでなく、柔軟で開かれた思考、総合的な判断力を養成するために、実験や調査などの客観的な視点からの心の探求、心理学的支援やアセスメントなど対人支援スキルの獲得を目指した体験的な学習、興味関心に応じた卒業研究の実践を行う科目を配置しています。



<https://www.hokusei.ac.jp/psy/>

理論と実践を両立したの国際教育で、変化の激しい“クロス・ボーダー社会”に必要な協働力と課題解決力を育みます。経済・経営と人文・国際分野を横断する学際的カリキュラムを基盤に、英語運用力と対話力を鍛えながら、国際社会を知る／価値を見つける／企画する／行動に移す4ステップを反復。少人数演習で情報収集・分析・批判的思考を磨き、企画立案、プレゼン、グローバルなフィールドワークを通じて判断力を養成します。国際実務経験者や外部講師による指導も取り入れ、失敗と振り返りを学びに変えながら、社会課題にソーシャルインパクトを生むイノベーション思考を涵養。外資系・グローバル企業から地域産業、国際機関、起業まで幅広い進路を視野に学びます。入学後早期から実務に触れ、主体的に着実にキャリアをデザインします。企業・自治体・地域組織と連携したプロジェクト型授業、国内外のテーマ留学・国際共修、インターンシップ等の実体験を通じて、解決策を形にする実践力とリーダーシップを磨き、北海道から世界へ、世界から北海道へとつなぐグローバル人材を輩出します。



<https://www.hokusei.ac.jp/global-innovation/>

研究生制度

大学または短期大学部卒業後、さらに指導教授の指導を受けながら研究を続けたいと願う者のために、1年間の研究生制度が設けられています。

科目等履修生制度

本学学生以外の者で、本学の授業科目の聴講を願い出た場合、選考のうえ科目等履修生として許可する制度を設けています。

情報の公表 大学・短期大学部の情報を公開しています。

教育研究上の基礎的な情報

- 教育研究上の目的
- 基本組織について
- 教員に関する情報
- キャンパスに関する情報
- 学費・諸納付金に関する情報
- 国際交流・大学間連携・社会貢献等

IR情報

- 授業評価アンケート
- 学生生活実態調査
- 資格取得等実績
- 進路等に関わる実績
- 卒業後動向調査

認可申請書関係

- 各種方針
- ガバナンス・コード
- 中長期計画
- 認証評価に関する情報

深い教養と専門の知識・
技能を修得し
愛と奉仕に生きる
自由な人間になる

短期大学部は、「深い教養と専門知識・技能を修得し、愛と奉仕に生きる自由な人間」の育成という目標を達成するため、特色あるカリキュラムを展開しています。

短期大学部／英文学科

実践に重点を置いた「生きた英語」を身につけ、豊かな国際感覚を養うことを目的としています。その理念に基づき、「聴く・話す・読む・書く」という基本的な能力をしっかりと養い、「知る・使う」といった応用能力も伸ばせる独自の英語教育カリキュラムを展開しています。ネイティブ・スピーカーによる英語のみの講義や、ICTを積極的に利用した講義なども開講しています。インターネット教材や学生が自宅からもアクセスできるシステムの採用、ライティング・ラボ、Oral Englishでのインターナショナル・チューター制度など、少人数での授業を中心としながら、学生個々の理解度や実力を把握してのきめ細かな指導を目指しています。またクラス単位で行う『スタディ・スキル』を通して、アカデミックアドバイザーによる個別学習指導や進路相談にも応じています。卒業後の進路として四年制の大学への編入、海外留学への準備などもサポートしています。幅広い職種において、英語力を活かしてグローバルに活躍する人材を育てることを目指しています。



北星学園大学短期大学部



<https://www.hokusei.ac.jp/>

修学上の情報

- 学生に関する情報
- 授業に関する情報
- 学修の成果に係る評価及び卒業・修了の認定基準
- 学生の修学、心身の健康、進路選択に係る支援
- 学生が習得すべき知識・能力に関する情報

- 教員の養成の状況についての情報
- 事業計画・事業報告・財務に関する情報
- 研究成果に関する情報

<https://www.hokusei.ac.jp/publicinfo/>



Hokusei Gakuen University Graduate School

充実した 研究環境のもと 専門を追求する

大学院には、文学研究科、経済学研究科、社会福祉学研究科の3研究科があります。文学研究科には言語文化コミュニケーション専攻(修士課程)が、経済学研究科には経済学専攻(修士課程)が、社会福祉学研究科には社会福祉学専攻(修士課程・博士〔後期〕課程)・臨床心理学専攻(修士課程)をおき、それぞれの分野において高度で専門的な教育・研究を行っています。



北星学園大学大学院



https://www.hokusei.ac.jp/graduate_college/

文学研究科／言語文化コミュニケーション専攻(修士課程)

現在の国際化と情報化の急速な発展は、異なる文化や言語を持った個人・集団・組織が交流・接触する機会を飛躍的に増大させ、その結果、相互の理解や合意の形成が、これまで以上に複雑かつ困難なものとなってきています。このような状況の中で、単に言語や交渉術の修得にとどまらず、対象とする文化や言語の歴史的、社会的、経済的背景を考慮でき、あわせて人間に対する深い関心と理解を兼ね備えた人材が求められています。言語文化コミュニケーション専攻では、そのような能力を持つ人材の育成を教育目標とし、文学・文化研究分野、英語教育・コミュニケーション研究分野、人間関係論研究分野の3領域において専門性の高い授業を提供しています。一部科目では担当教員と相談のうえ、遠隔授業が可能となっています。また、2年を超えて課程を履修し修了が可能となる長期履修制度も整備されています。



経済学研究科／経済学専攻(修士課程)

現在、グローバル化の中で、日本経済が直面する諸課題や企業の経営環境の変化に起因する諸問題が相互に関連して生じています。それらの解決の糸口を探るために、経済現象や企業経営の本質を多様な角度から分析・評価できる高度な研究能力を備えた人材がますます必要とされます。経済学専攻では、高度な研究能力を備えた専門家や専門的職業人の育成を目的としています。そのため経済学のみならず経営学に関する科目を設置し、高度な研究を可能としています。

大学院進学を希望する優秀な者に対して、大学院入学前に先取り科目等履修生として大学院科目の履修を認める制度、あわせて特に優れた業績をあげた学生に対して、1年間での学位修得を認める早期修了制度があります。また、社会人入学者等のために2年を超えて課程を履修することが可能となる長期履修制度もあります。



社会福祉学研究科／ 社会福祉学専攻(修士課程・博士〔後期〕)課程・臨床心理学専攻(修士課程)

わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められています。一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められています。本研究科では、これらの状況を鑑み社会福祉学専攻、臨床心理学専攻の2専攻の設置、また修士課程修了者が継続して学べる博士〔後期〕課程を設置し、社会の要請に応えています。社会福祉学専攻(修士課程)では、社会福祉学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身につけた専門家・教育研究者の養成を目的とし、臨床心理学専攻(修士課程)では、心理学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身につけた教育研究者および高度な心の専門家の養成を目的としています。社会福祉学専攻(博士〔後期〕課程)では、高度な専門的職業人の育成、教育・研究者の養成を目的としています。また、社会福祉学専攻(修士課程)では認定社会福祉士研修認証科目を開講し、臨床心理学専攻(修士課程)では公認心理師受験資格対応カリキュラムを展開しています。修士課程では、2年を超えて計画的な教育課程の履修を可能とする長期履修制度があります。



各種センター

■ スミス・ミッションセンター

キリスト教(プロテスタント)を建学の精神とする北星学園大学において、学生・教職員が一体となって建学の精神を継承し実践することを目指しています。①キリスト教の理解、②ボランティア、③平和の実現、④地域社会との連携を4つの柱として活動しています。



スミス・ミッションセンター ▲
<https://www.hokusei.ac.jp/smc/>

■ キャリアデザインセンター

就職支援課が窓口となり就職・キャリア支援にあたり、講座やガイダンスを実施するほか、学生本人との面談を中心とした伴走的なサポートを行っています。また、資料コーナーを設置し、就職に関わる案内書・求人要項・パンフレットなどの資料を備えています。



キャリアデザインセンター ▲
https://www.hokusei.ac.jp/carrer/career_center/

■ 国際教育センター

外国の大学及び学術研究機関との教育研究上の交流を推進するとともに、学生の外国語運用能力及び国際理解の向上を図ることを目的として設置しています。これまで米国、英国、カナダ、韓国、中国、台湾、スペイン、スイス、インドネシア、アイルランド、ベトナムと協定校を結んでいます。1年間に派遣約20名、受入約60名の交流を行っています。



国際教育センター ▲
https://www.hokusei.ac.jp/international/inter_center/

■ 学習サポートセンター

学生の個別学習や共同学習のための施設として、ラーニング・commonsを運営しているほか、様々な学習支援プログラムを展開しています。施設内の学習サポートデスクには、気軽にアドバイスを求めたり、質問をしたりできるように、教職員スタッフや「北星ピア・サポーター」(在学生スタッフ)を配置しています。



ラーニング・commons ▲
https://www.hokusei.ac.jp/activity/learning_commons/

■ 社会連携センター

社会連携の総合窓口として、地域住民、自治体などとの連携・交流を深め、地域の振興並びに地域・国際社会の発展に寄与することを目的としています。また、学生・一般の方々のスキルアップのために、北星オープンユニバーシティとして様々な講座を開講しています。



北星オープンユニバーシティ ▲
<https://www.open.hokusei.ac.jp/>

■ アクセシビリティ支援室

キャンパスソーシャルワーカーや支援スタッフが常駐し、障害のある学生や特別な支援を必要とする学生からの相談に応じます。合理的な配慮に基づく適切な支援内容を共に考え、障壁のない学生生活を目指します。



アクセシビリティ支援室 ▲
https://cgw.hokusei.ac.jp/accessibility_room/

■ 学生相談センター

こころの専門家であるカウンセラー（臨床心理士）が配置されています。学生生活のさまざまな場面で出会う迷いや悩みについて個別に相談に応じ、一緒に考え、乗り越えていくためのサポートをします。



学生相談センター ▲
<https://cgw.hokusei.ac.jp/support/>

■ 心理臨床センター（北星こころの相談室）

地域住民のメンタルヘルス向上を目的とし、心理専門職の資格を有した教員や非常勤相談員、臨床心理学を専攻する大学院生が、地域住民のさまざまな心の問題について相談に応じています。



北星こころの相談室 ▲
<https://www.hokusei.ac.jp/activity/consultation/>

■ 総合情報センター

教育研究および管理運営の情報化を推進し、情報基盤の管理運営を行うとともに、ユーザ支援を行っています。また、情報セキュリティに関する業務を行っています。



総合情報センター ▲
<https://cgw.hokusei.ac.jp/ipc/>

■ 教職課程センター

将来学校教員を目指す学生をはじめとして、学校教員免許の取得を志望している学生に対して、教職に対する心構えや必要な知識やスキルなどの専門性を学んでもらい、卒業と同時に学校教員免許を取得させることを目的としています。そのために、大学教員の支援や教職支援室でのバックアップを充実させています。



教職課程センター ▲
https://cgw.hokusei.ac.jp/teach_course/

■ 総合研究センター

教育職員の学術研究活動の活性化と研究水準の向上を推進するための活動を行うとともに、本学のプロジェクト研究の拠点となり、あわせて学外からの研究委託を受諾する機関として地域社会に貢献することを目的としています。



■ 入学試験センター

募集活動および試験実施計画の検討を主な目的とし、受験希望者に対してオープンキャンパス、進学相談会、大学説明会などを通じて、受験から入学につながる幅広い入試広報活動を行っています。



充実した学習環境

■ 図書館

約66万冊の図書を収蔵し、学生と教員の学習・研究活動のために運営しています。Web上で蔵書検索ができるほか、雑誌の学術論文などを調べることができます。地域貢献の一貫として、高校生や18歳以上の一般の方にも利用いただけるよう開放しています。



■ ラーニング・コモンズ

学生のための学習空間で、学生同士の「出会い」と「創造」の場です。学生が「主体的な学び」をできるように作られた空間で、議論をしたり、グループで作業をしたり、学生のさまざまな学習スタイルに合うように考えられています。



■ 国際ラウンジ／ NORTH STAR CAFE Sarah

北星学園大学の多文化交流の拠点となるラウンジです。留学生と在学生の交流を促進するため、学生団体による国際交流イベントを毎月開催していることに加え、Chat Table(英語・韓国語・中国語・インドネシア語・フランス語など)という留学生と本学の学生たちがその国の言語で話をする時間を設け、語学力の向上や異文化理解を深める機会を提供しています。

■ 学生交流会館 kirari

合宿所・集会所・国際交流会館としての機能をもつ施設です。宿泊室、研修室、食堂、シャワー室、バーベキューコーナーなどを設けています。クラブ活動やゼミナールの合宿、国際交流教員や受入留学生の滞在、グループ学習など幅広い用途に対応可能です。

■ チャペル

正式名称を「ウエブスター・グロウブス・ホール」といいます。チャペルでは、月曜日から金曜日のチャペルタイム(大学礼拝)、クリスマス礼拝などのキリスト教に係る行事のほか、卒業式やコンサート、結婚式なども行います。



■ 学生食堂

800席を有する食堂で、カフェテリア方式を採用しており、さまざまなメニューを組み合わせることができます。眺望にも優れ、手稲の山並みや大和ハウスプレミストームなど、札幌の街並みを眺めながら落ち着いて食事ができます。

■ 体育館

地下1階、地上3階建てで、アリーナ、フィットネスルーム、ランニングデッキなどを有しています。授業で使用していない時間は学生が自由に使用することができ、学生の健康維持・増進と、体力育成に活用されています。



3D&360° バーチャルツアー



北星学園大学の
キャンパスを3Dで
ご覧いただけます。



北星学園大学施設の 耐震化率は100%

耐震化率とは、1981年からの新耐震基準に基づいて設計された建物(面積)と、それ以前の建物のうち耐震診断を実施済みで、耐震性能を有しているあるいは耐震補強済みの建物(面積)を全体の建物(面積)で除した率のことです。

Hokusei Gakuen Girls' Junior & Senior High School

Find your
North Star!
私が歩む道は
私がつくる。

創立者サラ・スミスは「いろいろな分野で役立つ知識を教育し、実生活のさまざまな義務と責任を果たすこと」と「生徒に与える宗教的・霊的影響」を教育の理想として掲げました。その理念を承継し、21世紀を生きる子どもたちが「Global Communication: 地球市民の意識をもち、コミュニケーションできる力」「Heart: 聖書の教えを基とする『愛』と思いを胸に、平和と共生を目指す力」「Critical Thinking: 思考力と判断力を身に付け、行動する力」が身につくことを目指します。

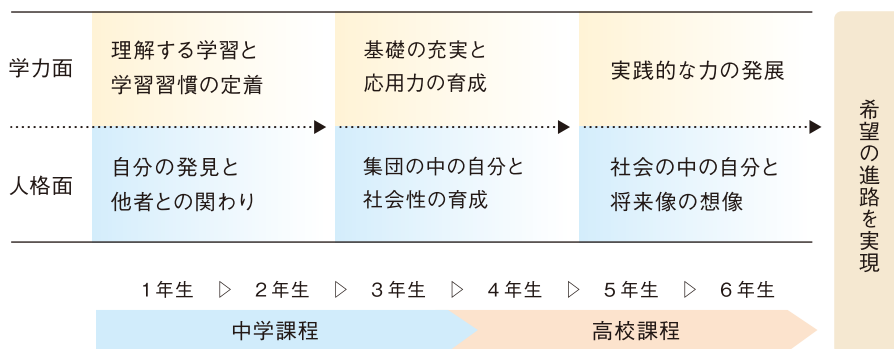




北星学園女子中学高等学校キャンパス

中学校

中高の枠組みにとらわれず、段階的・効果的に確かな知識と人格を育んでいきます。また、高い学力・グローバルな視野・社会性など現代社会に求められる能力を育てます。



選択制プログラム

生徒たちにできるだけ多くの機会を提供するため、参加できる様々な活動を用意しています。

全校生徒

ASP

希望者が参加する放課後のプログラムです。生徒が選べる様々なクラスがあります。韓国語、プログラミング、ライブプランニング、オルガン演奏、その他多数。

高校生

英語劇

本校の伝統的な取組みの一つともいえる英語劇は、すべて英語のミュージカルです。生徒たちが演出をし、衣装をデザインし、すべてを自分たちで行います。

留学やスタディツアー

学校からとびだして体験することから学ぶプログラムです。マレーシアまたは沖縄での5日間の研修旅行、あるいは1ヵ月、3ヵ月、または1年間の留学プログラムから選択します。



高校コース紹介

あなたの未来は、あなたが決める

入学時にコースを選びますが、それは「今の自分」が選ぶ道。1年次は全コース共通カリキュラム（30科目中25科目）で基礎を学びながら、本当にやりたいことを見極めます。

2年次以降は、最初のコースを深めるか、新しい道へ進むためにコース変更するか、再びあなたが選びます。また、どのコースで勉強しても、選択授業でコースをまたいだ授業もありますから、自分に合った道を作ることができます。STEAM、国際交流、部活動など豊富なプログラムと多様な仲間との学びの中で、「好き」「得意」「興味」を発見してください。私たち教員は、あなたが自分の北極星を見つける旅に寄り添います。

普通科 Academic コース

バランスの取れた教科学習と課外活動の両立を目指すコースです。5・6年次には文系・理系に分かれて専門性を高めます。

主な特徴

- 5・6年次は文系（英・国・社／37単位）または理系（英・数・理／35単位）を選択
- 幅広い放課後プログラムと多様な活動を通じた自己発見

進路 国公立大学・難関私立大学



普通科 Globalist コース

世界をフィールドに活躍するための実践的な英語力とコミュニケーション力を養成するコースです。公立高校の約2倍の授業時間で英語4技能を徹底強化します。

主な特徴

- ケンブリッジ大学出版テキストで世界水準の英語教育、英語授業数は公立高校普通科の約2倍
- 外国人とのワークショップで実践力を磨く

進路 グローバルに活躍できる多様な進路



普通科 Pioneer コース

基礎学力を着実に身につけながら、多様な選択肢の中から自分の進路を発見していくコースです。5・6年次には希望進路に応じたきめ細やかな指導を行います。

主な特徴

- 5・6年次は「英・社」重視または「理・数」重視のカリキュラムを選択
- 仲間と共に成長できる supportive な環境で確かな基礎学力をつける

進路 北星学園大学などの私大系・看護医療系



普通科 Music コース

「Performance」と「Progressive」の2つの学び方から選べる、音楽を専門的に学ぶコースです。実技と理論をバランスよく習得し、音楽系だけでなく幅広い進路選択が可能です。

主な特徴

- 定期的な実技試験と演奏会で表現力を磨く
- 大学やプロ演奏家による多彩なワークショップ、芸術系国公立大学を目指す一般科目も完備

進路 音楽大学、芸術系国公立大学、舞台スタッフ、音楽療法、幼児教育系など





ステンドグラス

クリスマスには全校生徒でステンドグラスを作成します。



花の日礼拝

日頃お世話になっている方々へ感謝を伝えます。



フードバンク活動

生徒が自宅から食品を持ち寄り寄付をします。



ゴミ拾い活動

町内会と合同で毎月実施しています。



商品開発(中学)

地元企業と協力して、コラボレーション商品を開発します。

Hokusei Gakuen University High School

自分らしく輝け

自由と民主主義の源泉でもあるプロテスタンティズムを理念に建学の精神を最大の特徴とした学校づくりを推進しています。本校の自主的で民主的な人格形成を柱とした教育方針は、男子高等学校時代から、共学の新札幌高等学校、そして北星学園大学附属高等学校へと受け継がれています。その具体化として「共育」を軸とした実践の展開を行っています。心を開いて共に学びあい、「知る力」を養い、「探究」することによって市民としての自覚と資質を養います。



The truth will liberate you.

北星学園大学附属高等学校



<https://www.hokusei-s-h.ed.jp/>



北星学園大学附属高等学校キャンパス

特別進学コース

高い進路目標に向けた充実した進路支援体制

国公立大学受験を視野に入れたカリキュラムと多彩な講習を通し、高い進路目標に向けて着実に学力を養成するコースです。生徒同士が3年間切磋琢磨しながら、志望校合格を目指して学習できる環境が魅力です。

特別進学コースの POINT

通常7時間授業

国公立大学受験に向け、1日7時間授業を行い、学力を高めます。

少人数制展開授業(数学)

個々の数学力を引き上げられるようそれぞれの学力に応じた展開授業を行います。

講習(長期休暇)

1年次から国語・数学・英語を中心に開講しています。大学受験を想定した授業を行います。



進学コース

多様な進路希望に対応するきめ細やかな支援体制

北星学園大学をはじめとして、医療・工学なども含めた私大を進学先として希望する生徒を対象としています。1・2年次には、大学進学のための「教養教育」を中心としており、3年次には、より実用社会に近づけた教養を深く掘り下げ、探究的な授業が行われます。

進学コースの POINT

展開授業(英語・数学)

得意な生徒だけではなく、苦手な生徒にとっても個々の力を引き上げられるよう、それぞれの学力に応じた授業を行います。

クラブ活動との両立

本校生のクラブ活動加入率は約8割です。クラブ活動と日常の授業との両立ができるよう、本校では生徒をサポートしています。



キリスト教教育

キリスト教の精神に根ざした他者と共に生きる自立した市民としての人格形成

毎週月曜の礼拝にはじまり、聖書の授業、奉仕活動、平和祈念礼拝、クリスマス礼拝など、人の話を聴く機会が数多くあります。そうした活動の中で自分を知り、他者を認め、それぞれの個性や性格を尊重し、「共に育つ」教育を行っています。



全校礼拝

週に1回、生徒教職員全員で全校礼拝を行います。聖書の言葉とメッセージに耳を傾け、自分や他者と向き合う場となります。



クリスマス礼拝

キリストの降誕を祝います。全ての人の平和を願い、みんなで賛美歌や献金、祈りを捧げます。

グローバル教育

国際社会を生き抜く考え方やものの見方を養う

近年、大学進学を目指すうえでも、これからの社会で役立つコミュニケーション力を磨くためにもグローバルな視点を持つことが重要視されています。本校では、週に1度ネイティブの先生の授業があります。また、2年生では、オンライン英会話を受講し1対1でフィリピンの先生と英会話の練習をします。生徒個々の英語力の強化だけでなく、国際社会を生き抜く考え方やものの見方を養うことを目指しています。



ネイティブの授業

ネイティブ教員が授業に入り「生きた英語」を学びます。クラスメイトとも英語で会話をするため、コミュニケーション力も自然と身につけることができます。



オンライン英会話

英語科の授業では、全員がタブレットを通じてネイティブスピーカーとの1対1レッスンを受講します。ネイティブスピーカーとの会話は、自然な発音と文法に触れることができ、リスニング力の向上にもつながります。

探究活動

自分の興味・関心はどこにあるのかを深く掘り下げていき、グループ討議やプレゼンテーションやレポート作成を通して表現する基礎を学びます。



探究基礎

自分の興味・関心はどこにあるのかを深く掘り下げていき、グループ討議やプレゼンテーション・レポート作成を通して表現する基礎を学びます。

総合研修

研修旅行の行先を自分で選択します。訪問するコースの中から探究課題を設定し、現地を訪れることで自分の考えを確認します。旅行後は自分の考察をまとめコンテストで発表します。

総合論文・研究

3年次には自分の考えを伝える方法としての小論文の学習に取り組みます。特別進学コースでは小論文ではなく、文系・理系のテーマに沿って各自課題を設定し学ぶことも可能です。

研修旅行コース(実施予定)

■韓国コース ■台湾コース ■フィリピンコース ■タイコース
■北九州コース ■沖縄コース ■中国・四国コース

※年度により、実施されないコースもあります

スポーツ施設紹介

総合グラウンド・野球グラウンド

人工芝の総合グラウンドは、夜間照明、テニスコートの他、全天候型舗装走路や幅跳び走路など陸上施設も充実しています。体育の授業やサッカー部をはじめとしたクラブ活動の他、様々な学校行事で活用しています。野球グラウンドも夜間照明が設置されており、日没後の練習にも対応できる環境が整っています。いずれの施設も学校に隣接しているため、移動時間を要することなく利用できます。



屋内スポーツ施設

メインアリーナはバスケットコート2面が取れる広さです。雨天でも活動できるランニングデッキも整備されています。メインアリーナの他、サブアリーナ、体育室、トレーニングルームなどの施設もあり、様々な屋内スポーツに活用しています。



Hokusei Yoichi High School

集団で個が育つ。
個が集団で引き出され、
活かされる。
集団もまた育つ。

本校の教育の中心は、「子ども達を集団の中で育てる」という点にあります。これは、子どもたちは集団の中でこそ成長する、さらに、社会の中で生きていく力は集団の中で育つ、という人間観と教育観に基づいています。さらに、集団を基礎に教育することで、キリスト教精神に基づき、優しさと強さを兼ね備えた人間を育てることに力を注いでいます。



北星学園余市高等学校



<https://www.hokusei-y-h.ed.jp/>



北星学園余市高等学校キャンパス

普通科

子どもたちは、「人の中でこそ、育つ」という考え方を中心に集団づくり教育を柱としています。人間関係や人との距離感、自己表現や他者理解等の悩みから小中学校で学校生活でのつまづきを経験してきた子どもたちも多く入学してきています。学習活動は基礎からの学び直しに重きをおき、時間を掛け学び直す中で生徒の自信を取り戻します。また頻繁に行われる学校行事において担う役割やその活動の中で経験するクラスメイトとの人間関係や責任感の中で安心感や自己肯定感を育みます。また、親元を離れ、自分を見つめ直すことができる寮下宿生活は、初めこそ不安が大きいのですが、寮下宿の管理人さんや同じ不安を乗り越えてきた先輩の支えもあり、精神的にも大きく成長する貴重な機会となっています。3年間という高校生活の中で、じっくりと自分らしい生き方を見つける教育環境となっています。



集団の中で育まれる。余市の教育



■基礎から学ぶ、共に学ぶ

分からないままにせず基礎から学び直すことで、知ること、理解することの楽しさを改めて知ってもらい授業づくりを心掛けています。また、個人ではなく複数で学ぶことで、個人では目がいかなかった点に着目や気づきが生まれ、思考に深みを持たせることができます。



■ 学校行事

どの行事も生徒会を中心として、クラスや学年、全校的な取り組みとして小さなことから話し合う中で作り上げます。対面式、強歩遠足、弁論大会、スポーツ大会、北星祭、修学旅行、予餞会などに全員で関わることで対人関係や精神面での成長につながります。



■ 進路指導

進学でも、就職でも、生徒自身が納得するまで自己決定できるように話し合います。定期的に外部のゲストを招いて、話ができる環境を整えることで様々な選択肢があることを知ってもらい自分らしい選択が出来るよう支援しています。

■ 寮下宿生活

親元を離れ、不安の中でスタートする寮下宿生活では、支えてくれる先輩たちが自然と目標になっていきます。卒業する頃には生徒の第二の故郷となります。部屋は全て個室です。



北星学園の高大連携

北星学園大学と北星学園の各高校・中学との間では、

法人のスケールメリットを活かして様々な面で高大連携事業を行っています。

さらに、北星学園大学では、全国の高等学校とその生徒を対象とした「高大連携プログラム」を行っています。

学園内連携

北星学園女子中学高等学校

緑の教室

「こころ」と「いのち」を考える宿泊研修です。1年生から3年生まで毎年、校外の施設にて1泊します。北星学園大学で行う緑の教室では、学生交流会館Kirariに宿泊し、自分自身や、自分と他者との関係を見つめる活動を行います。

高大連携プログラム

4年生では本校生徒対象の「北星学園大学ミニオープンキャンパス」を、5年生では北星学園大学キャンパスで模擬講義を実施します。高校在学中から大学での学びをより深く知ることができます。



北星学園大学附属高等学校

探究プログラム

北星学園大学に推薦で進学する生徒向けに、高校までの学びから大学での学びへとスムーズに移行できるよう、「学び方を学ぶ」ことを目的に作られたプログラムです。生徒は進学する学科に関する課題を設定し、ゼミナール形式で調査・分析を進め、プレゼンテーションや論文執筆を行います。附属高の卒業生である北星学園大学の学生が生徒をサポートします。

学生アシスタント制度

北星学園大学の学生がアシスタントとして、校内で生徒に対し定期試験前の学習指導や実用英語技能検定の二次試験対策を行います。



北星学園余市高等学校

高校教員による進学後サポート

北星学園余市高等学校から北星学園大学へ入学した学生を対象に、進学後のサポートを行います。高校の教員が大学に訪れ、学生から近況の報告や相談などを受けることで、学生生活の不安を解消します。



スクールソーシャルワーカーの配置

現代社会において多様化・複雑化する生徒の様々な悩みに対応するため、学園内高等学校にスクールソーシャルワーカーを配置しています。これにより、生徒に対するきめ細やかなサポートを可能とし、さらに、ソーシャルワーカー養成課程を持つ本学社会福祉学部と連携することで、生徒が安心して過ごせる環境を提供しています。



北星学園大学 高大連携プログラム

■高大連携プログラム

<https://www.hokusei.ac.jp/activity/highschool/>



高大ブリッジ講義(出張講義)

北星学園大学の教員が高校の教室に赴き、大学での「学び」とはどういうものなのか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れてもらう機会を提供します。出張講義の申し込みは全国の高校から受け付けており、教員の派遣に関わる費用は全て北星学園大学が負担します。希望によりゼミ形式での授業も行います。

入学前教育

高校までの学習と大学において期待される学習のギャップを埋めるため、学校推薦型・総合型選抜で入学が決定した生徒を対象に、学科別に入学前教育を実施します。また、この取り組みの中で「大学と生徒」、「学科と生徒」、「大学と高校」の関係強化を図ります。



北星学園大学の社会貢献

北星学園大学は、開学以来、地域・社会そして世界に開かれた大学となることを基本理念として掲げています。
大学における教育・研究から「知と技」を生み出し、それらが社会において成果を発揮し、
地域の福祉、教育、文化及び産業等の振興並びに地域・国際社会の発展に貢献する、地域に根ざし、
世界に開かれた大学となることを目指します。

地域連携

教育、産業、文化、スポーツなどの様々な分野に関して、近隣の市区町村、団体と協定を締結し、連携して地域の振興と発展に努めています。

■地域連携

<https://www.hokusei.ac.jp/activity/community/>



公開講座



大学公開講座

一般の方を対象とした講座で、札幌市教育委員会の後援により、札幌市内の大学に先駆けて1975年から開始しました。1つのテーマについて、学内の専任教員が担当する講座を年に3回程度開催しています。

学科・部門公開講座

各学科、部門が国内外の専門家を講師として招き、随時講座を開催しています。学生のほか、一般の方にも無料公開しています。

北星オープンユニバーシティ

地域の方や卒業生の生涯学習の場として1993年に開講された『北星短大ナイトプログラム』と在学生向けの資格講座であった『北星学園大学課外講座』を2002年に統合し、現在は『北星オープンユニバーシティ』として開講しています。地域の方や卒業生に向けた講座は英語や仏語、韓国語等の語学が主体となり、実施方法はオンライン講座がメインとなりますが、一部大学内で行う対面講座もあります。また、在学生向けには社会福祉士や日商簿記、旅行業務取扱管理者やMOS等の資格対策講座を提供しています。

■北星オープンユニバーシティ HP

<https://www.open.hokusei.ac.jp/>



能登被災地ボランティア

学生ボランティアが長期休みを利用して能登半島地震の被災地へ赴き、仮設住宅を訪問しました。現地の方々の声に寄り添う傾聴活動に加え、歌やクイズ等のレクリエーションを通して、交流を深めました。



国際ボランティア - タイ・ワークキャンプ (スミス・ミッションセンター)

学生とチャブレンが毎年タイ王国のパタヤにある児童福祉施設バーン・ジンジャイに赴き、子どもたちとの交流や奉仕活動(野菜園・花壇作り)、文化紹介(手巻き寿司作り、踊り、習字 ほか)などを行います。



北星こころの相談室 (心理臨床センター)

心の問題や悩みでお困りの方のご相談に応じ、臨床心理学的な援助を行います。大学院における臨床心理学に関する教育と研究、およびそれらの活動を通じ、地域のみなさまに貢献する場として設けています。





Hokusei Gakuen

学校法人 **北星学園**

**北星学園大学大学院
北星学園大学
北星学園大学短期大学部**

〒004-8631
札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL (011) 891-2731
URL <https://www.hokusei.ac.jp/>



北星学園女子中学高等学校

〒064-8523
札幌市中央区南4条西17丁目2番2号
TEL (011) 561-7153
URL <https://www.hokusei-ghs-jh.ed.jp/>



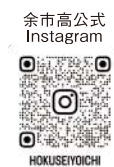
北星学園大学附属高等学校

〒004-0007
札幌市厚別区厚別町下野幌38番地
TEL (011) 897-2881
URL <https://www.hokusei-s-h.ed.jp/>



北星学園余市高等学校

〒046-0003
余市郡余市町黒川町19丁目2番地1
TEL (0135) 23-2165
URL <https://www.hokusei-y-h.ed.jp/>



創立百周年記念館



この建物は、1926(大正15)年12月、スイス人建築家 Max Hinder(マックス・ヒンデル)氏の設計により、米国ミッションから派遣された女性宣教師の住居として現在地に建てられました。太平洋戦争勃発の年、当時の宣教師が米国へ帰国した後、この建物は音楽室として使用され、戦争終結とともに、宣教師が帰任し、再び住居として使用されるようになりました。1960年、女子中高の校舎建築に伴い建物は北へ移転しましたが、老朽化が著しく住居としては不適當になりました。以後、短大の研究室、図書室、クラブ室として使用されてきました。1987年、北星学園の創立百周年記念事業としてこの建物を移転改修し、中庭の整備と併せて記念館として保存することになりました。1989年に修復工事が行われ、現在、北星学園の歴史と建学の精神を学ぶ場として、広く市民に開放されています。また、札幌ではこうした古い建物が珍しくなったため、1988年に札幌市の「ふるさと文化百選」に指定されました。また、1998年には、国の「登録有形文化財」に、2005年3月には都市景観重要建築物等に指定され、10月には第12回札幌市都市景観賞を受賞しました。

■設置校所在地

